

修士課程の概要

■コース案内 ■各種インフォメーション

コース案内

社会の多様なニーズに対応した目的別のコース制による融合教育を行っています。

医科学コース

医学・生命科学領域の幅広い知識を持って活躍できる高度専門職業人の育成を目的とするコース

全コース必修共通コア科目に加えて、医学研究に必要な知識や技術を演習形式で学ぶ基本医学研究法と、口頭発表および論文作成の技術を修得する研究発表技法を履修します。さらに基本医学総論および基本医学研究により、高度専門職業人として必要な幅広い医学知識を修得します。

公衆衛生学コース

2年コース **社会全体ならびに人々の健康と生活、安全の維持・向上のために、公衆衛生上の諸課題に対し、幅広い知識と高い技能をもって活躍する人材の育成を目的とするコース**

米国の公衆衛生教育協会の認定基準に準拠した「疫学」「生物統計学」「社会行動科学」「保健医療管理学」「環境保健学」の5領域の基礎科目を必修科目とし、さらに各自の関心にあった選択科目を組み合わせることで、公衆衛生学の専門家として求められる能力を修得します。

1年コース **一定の実務経験を有する医師・歯科医師・薬剤師などを対象として、医療・公衆衛生領域で活躍できる高度専門職業人を1年で育成することを目的とするコース**

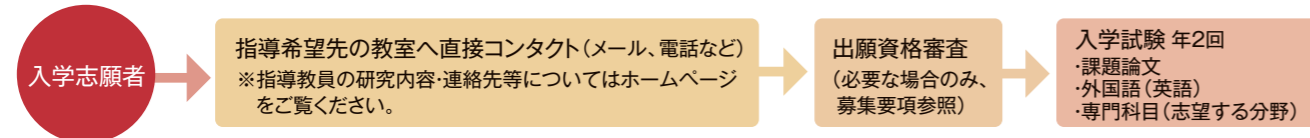
2年コースと同様の学修を1年で行います。修士論文に替えて、特定の課題についての研究の成果の提出と合格により修了することが可能です。

各種インフォメーション

■入試について

- **募集人員** 医科学専攻20名
- **出願資格** 学士の学位を有する方等(公衆衛生学コース(1年コース)のみ医師・歯科医師等の実務経験が2年以上の方)
- **出願期間** 【前期試験】平成29年7月11日(火)から平成29年7月18日(火)まで
【後期試験】平成29年12月5日(火)から平成29年12月11日(月)まで
受付時間：午前9時から午後5時まで。郵送による場合は書留速達とし、出願期間内必着のこと

●入試・選考の概要



- **試験日** 前期試験：平成29年8月23日(水)／後期試験：平成30年1月17日(水)

■諸費用

- **入学検定料***:30,000円
- **入学科***:282,000円
- **授業料**:535,800円(年額)

(入学科、授業料は予定額です)
* 国費外国人留学生(文部科学省奨学金受給者)は不要です。願書提出の際、必ずその旨を申し出てください

◎詳細は大学院学生募集要項で確認してください

■長期履修制度(修士課程を3年又は4年で修了する制度。公衆衛生学コース(1年コース)へ入学した方は、申請できません)

学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限(2年)を超える期間にわたり計画的に教育課程を履修したい旨を、入学前に申請し、許可された場合、約2年間の授業料で最大4年間まで在学できる制度を設けています。

■修了要件

- ① 修士論文又は特定の課題の研究成果(公衆衛生学コース(1年コース)のみ)に関する審査、試験に合格すること
- ② 所定の単位30単位以上(平成28年度以前の入学者は40単位以上)の修得

MESSAGE コース在籍者からのメッセージ

医学研究の基礎から学べる場

医科学コース/消化器外科教室I(平成28年度入学) 北海道大学 医学部保健学科 検査技術科学専攻卒業

なかやま 中藪 拓哉

学部では、食と健康の視点で、ビタミンD類の定量に向けた新規ラベル化試薬の合成と応用をテーマに研究を行いました。高度な知識と技術を修得し、自分の可能性を広げるために医学研究科に進学しました。現在は、小腸上皮細胞を用いて小腸虚血再灌流に対する治療法開発と作用機序の検討を進めています。

修得した多くの技術を用いて、低温下あるいは復温後の細胞生存、アポトーシス、オートファジー、ミトコンドリア機能、酸化ストレス、細胞内Ca²⁺濃度等の推移を評価し、日々実験結果を得る喜びを感じています。

消化器外科教室Iのスタッフや年上の院生の皆さんのお世話になりながら、研究はもとより多くのことを学び、人としての成長も実感しています。



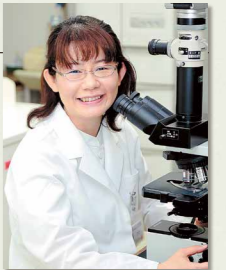
素晴らしい学習環境に感謝して

公衆衛生学コース(2年コース)/公衆衛生学教室(平成29年度入学) 北海道大学 保健センター 検査室勤務

吉村 彩

私は現在、北海道大学の保健センター検査室に勤務し、学生の健康に関する業務と肥満学生を対象とした研究に携わっています。以前より、採血、検査、統計解析などを通じて、予防医学や公衆衛生に興味を持っていました。論文作成などで自分の知識不足に限界を感じて悩んでいた頃、仕事を続けながら平日夜間と土日に履修可能な公衆衛生学コースが設置されるのを知り、すぐに進学を決意しました。

今後は、疫学研究を基礎から学び、職場で得たコミュニケーションの大切さを生かしながら、多種多様な考え方を吸収し、その結果を業務や社会に還元できるよう精進したいと思います。自己の体調管理は必須ですが、視野が広がるであろう2年間が今から楽しみです。



公衆衛生を学んで感染症に立ち向かう

公衆衛生学コース(1年コース)/衛生学教室(平成29年度入学) 独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター 感染症内科勤務

藤田 崇宏

私は感染症を専門としている卒後17年目の内科医です。以前から公衆衛生を系統的に学ぶ機会を持ちたいと思っていました。フルタイムで働きながら通える1年コースであることと、感染症疫学と数理モデルの専門家の指導を受けられることから入学を決めました。

普段は北海道がんセンターで感染症のコンサルテーション、院内感染対策を行っています。がん患者さんの感染症は、がん治療の進歩や高齢化などで日々新しい問題が生まれており、興味の尽きない分野です。

グローバル化による人の移動、薬剤耐性菌の拡大など常に世界の公衆衛生に直結しているのが感染症の分野です。日常業務の合間をぬって勉強するのは容易なことではありませんが、公衆衛生の専門家の指導を受けて、感染症の疫学と研究手法を学んでいます。



■顕彰・奨学金制度等について

●医学院の顕彰制度

優秀論文賞

優れた論文を発表した学生に優秀論文賞および副賞(10万円相当)を授与します。

高桑榮松奨学金

優れた業績をあげた若手研究者(大学院生を含む)に対する奨励賞(10万円(3名~4名))を授与します。

●医学院の奨学金制度

音羽博次奨学金

学業・人物ともに優秀な学生および外国人留学生に奨学金(15万円(各10名以内))を授与します。

●北海道大学の奨学金制度

新渡戸スクール(基礎プログラム)

学業・人物ともに優秀な学生に奨学金(30万円(全学5名程度))を授与します。

●その他の奨学金

日本学生支援機構の制度

最も一般的な奨学金を貸与する制度です。第一種奨学金(無利息)と第二種奨学金(利息付)があります。※詳細は同機構のウェブサイトをご覧ください。

●ティーチング・アシスタント(TA)制度

TA制度は、広い意味の大学教育の一環として、よき大学教員・職業人となるための実地訓練(教育現場の体験)を目的として導入されました。平成28年度は10名の採用があり、1人あたり年間約14万円が給与として支給されました。